

連想語調査の反応で観察された書き間違いの検討

テリー・ジョイス

(多摩大学 グローバルスタディーズ学部)

key words : 書き間違い 文字表象 連想語調査

書き間違いのデータから、心的辞書内の文字表象の組織構造に関し、極めて興味深い洞察が得られる可能性がある。このことは、表音文字の平仮名、片仮名に加え、形態文字の漢字が混じり合っている複雑な日本語の文字体系の場合に、よりいっそう当てはまるものと思われる。しかしながら、健全な日本語話者がおかず書き間違いに関する研究は比較的少ない。その中でも、374 個にのぼる二字熟語の書き間違いを検討し、間違いの分類を試みた Hatta, Kawakami, & Hatasa (1997) および Hatta, Kawakami, & Tamaoka (1998)の研究が注目に値する。そこで集められたデータは、日本人学生が、必ずしも漢字を使わなくてもよいという状況下でおかした間違いの事例である。それゆえ、八田らの主張によれば、書き手が書いた漢字は少なくとも正しいと信じられて用いられたことになる。だとすれば、書き手があまり自信のない漢字を書こうとしている時、それがどのような情報に基づいて行なわれようとしているのかは、この研究では不明のままである。

本研究は、ネイティブ日本人を対象とした連想語調査 (Joyce, 2005)で見出された、反応時の書き間違いデータを分析したものである。連想語調査では、回答者に印刷された刺激 (基本的な日本語の漢字と言葉) を読んでもらい、最初に思い浮かんだ意味的に関連する語を書き留めてもらった。しかしながら、回答者は最初に思いついた単語をうまく思い出せない場合、それを別の言葉で置き換えて対応してしまうという懸念がある。そのため質問紙には、回答者が最初に思いついた単語の正しい字体に自信がなければ、別の単語を思い起こそうとするのではなく、「最初に思いついた単語の漢字を書ける範囲で書き、ふりがなをふってください」という指示を含ませておいた。連想語データの信頼性を高めるため、こうした指示を加えたわけだが、これは同時に、回答者が正しく書けるかどうか自信のない単語であっても、なんとか書く意欲を鼓舞する効果をもたらした。本研究では、二字熟語を書く際の間違いだけでなく、連想語反応で観察されたあらゆる書き間違いを考察の対象としている。

方法

回答者 : 約 1,480 名の日本人大学生に対して、連想語反応調査のための質問を行った。

対象項目 : 連想語データの入力に際し、1,093 個の書き間違いが見つかった。

結果

データは、ターゲット語の字体に関する分類と書き間違いに関する分類の 2 種類に分けられる。漢字の書き間違いの分類は、主として Hatta, Kamikawa, & Tamaoka (1998)による二字熟語の書き間違いの分類に依拠する。その分類は、基本的に 3 種類の置き換えに基づいている。すなわち、同じ読みもしくは同じ発音を持った漢字による置き換え(P)、構成や字体が

類似した漢字による置き換え(O)、意味的に類似した漢字による置き換え(S)の 3 種類である。漢字書き間違いの分類には、さらにこれら 3 つのタイプが混成したものや、擬文字、語順の間違いなどが含まれる。八田らによる分類との重要な違いは、擬文字の扱いにある。八田らは、データ中、15%に及ぶ擬文字をひとまとまりのカテゴリーとして扱っているのに対し、本研究ではそれを字体、音韻、意味上の 3 つのカテゴリーに分類した。本研究には、二字熟語以外の単語の書き間違いも含まれるため、仮名の使用に関連した 4 種類の間違いもカバーできるよう、その分類スキームを拡張した。今回新たに追加した書き間違いの最初のカテゴリーは、漢字と平仮名からなる単語に生じる送り仮名の間違い (例:「汚い」を「汚ない」と表記)。2 番目の新たなカテゴリーは、平仮名表記で、モーラに間違った文字を当てはめたもの (例:「少しづつ」を「少しづつ」と表記)。3 番目のカテゴリーは、仮名に必要な濁点がつけられていない、もしくは不必要な濁点がつけられているもの (例:ゴシック体をゴジック体と表記)。4 番目のカテゴリーは、仮名による音表記が標準的な表記にしがたっていない間違い (例:「サンドペーパー」を「サンドペパー」と表記) である。表 1 は、ターゲット語の字体に関する分類を示したものである。

表 1. ターゲット語の字体に関する分類

ターゲット語字体	例 (格好内はターゲット語)	数
漢字 1 字	枝(枝)、瓜(瓜)	51
漢字 1 字+仮名	謝まる(謝る)、借りる(貸りる)	172
漢字 2 字	我慢(我慢)、運搬(運搬)	519
漢字 2 字+仮名	出会う(出会う)	67
漢字 3 字	洗濯物(洗濯物)	114
漢字 3 字+仮名	店閉まい(店仕舞い)	15
平仮名	どんぼ(とんぼ)、いちめい(いじめ)	28
片仮名	ギブス(ギプス)、ドラ(ドア)	33
他		94
	合計	1,093

考察

漢字 1 字と仮名の組み合わせ語に関する間違いの頻度は、送り仮名使いにおける間違いの頻度を反映していると考えられる。さらに擬文字を分類することにより、回答者があまり自信のない漢字を書こうとする際、どのような情報を用いているかについて、興味深い洞察が得られるだろう。本研究によって、ネイティブ日本人は、漢字の書き方に自信を持ってない場合でも、漢字の構成要素もしくは全体的形態について何らかの視覚的イメージをもっていることが示された。

Joyce, T. (2005). "Constructing a large-scale database of Japanese word associations", In Tamaoka, K. (Ed.). *Corpus Studies on Japanese Kanji*. (Glottometrics 10). pp. 82-98. Hituzi Syobo: Tokyo, Japan and RAM-Verlag: Lüdenschied, Germany.

(Terry JOYCE)